

「青木富太郎（原三溪）公私日記帳」を読み解く

発表者：尾関孝彦会員

青木富太郎（のちの原三溪）が明治17年10月23日から翌年4月12日までの約半年間に記した日記「公私日記帳」が、原三溪・柳津文化の里構想実行委員会によって解説され平成28年8月に刊行されました。その刊行に携わった尾関会員から、16歳までの富太郎の岐阜での暮らしや、日記に登場する人名や地名について解説してもらいました。

そのうちのひとつ、11月1日には富太郎が友人と「手力雄神社祭烟火見物」に行ったことが記されています。手力雄神社（てじからおじんじや）は岐阜市蔵前にあり、今は4月第2土曜に春の大祭として火祭りが行われています。明治17年の火祭りは時期が違ったようです。帰宅は夜11時とのことですが、暗いなかを歩いたのか、或いは乗り物があつたのか、当時の交通事情はどうだったのでしょうか。

日記が最後に書かれてから10日後の4月22日に富太郎は上京します。しかし日記にはそれを思わせる記述はみられません。その空白の10日間に何があつたのか、気になるところです。



間門小学校（6年3組）「三溪園実習」成果発表について



発表者：廣島亨会員

平成28年度の間門小学校6年3組は総合学習の一環として三溪園を取り上げました。児童がテレビニュース風に制作した三溪園の番組では、三溪園ガイドボランティアとして廣島さんがインタビューを受けています。去る3月4日には同校体育館で成果発表会が開催され、児童が企画した解説パネルや模型の展示、ニュースの上映、クイズラリーなどが披露されました。来場者として参加した廣島さんから、その概要の報告がありました。